



原発事故で全村避難 福島県飯館村・菅野村長

災害とまちづくりセミナー

「ままでの成長社会へ」の成熟社会へ
スピードの成長社会から「ままでの成長社会へ」の成熟社会へ



福島第一原発事故の影響で全村避難を余儀なくされた福島県飯館村の菅野典雄村長を講師に招いた「訓子府町災害とまちづくりを考えるセミナー」が、11月8日に公民館で開かれました。

菅野村長は『「お金の世界」から「いのちの世界」。「このころの世界」へく東日本大震災・福島第一原発事故からの復興にむけて』と題して講演しました。

菅野村長は、現代を「第3の転換期」とし、明治維新など先人の努力による変革などをあげ、「時代の流れは速い。これを見誤ると自治体も崩壊する」としたほか、さまざまな事件の頻発で「世界一安全な国がない国」になってきており、スピードで発展させるのではなく、スローライフとして「ままでの成長社会へ」の成熟社会へ（両手＝思いやり、包み込み）ライフへ移行するなど、引算もあって幸せな社会という考え方もある。成長社会から成熟社会をめざすことが、自分の考えであり、原発事故から学んだこと」と訴えています。

スピードの成長社会から「ままでの成長社会へ」の成熟社会へ

JAきたみらい職員らが町内のごみ拾い



JAきたみらいは、11月1日に訓子府・置戸両町内でごみ拾いを行う清掃活動を実施しました。

訓子府の活動には、農協役職員のほか、組合員、町役場職員合わせて約60人が参加、15班に分かれて、町内の道道3路線で道端に落ちている、空き缶やビニール袋、紙くずなどを拾い、ごみ袋に入れていきました。

場所によっては、ごみ袋がいっぱいになるほどのごみが落ちており、清掃後は、道路や道路脇がすっきりしていました。

KAPPA（カップ）マスタース開催

約150人が記録に挑戦し力泳

第20回KAPPA（カップ）マスタース水泳大会が、11月9日に町温水プール「KAPPA」で開かれました。

訓子府町内をはじめ、近隣の北見市や網走市、遠く岩見沢市や釧路市など道内各地から約150人が参加しました。

競技は、年齢別の個人種目のほか、男女、混合の自由形リレーなどの団体種目で、参加者は水しぶきを上げながら力強く泳ぎ、自己の記録に挑戦しました。



訓子府小学校 開校1世紀を祝う

約350人出席し記念式典



訓子府小学校の開校100周年記念式典が11月22日に訓小体育館で行われ、237人の全校児童を含め約350人が「1世紀」を祝いました。

大正3年に前身の訓子府教育所から昇格し訓子府尋常小学校として歴史が始まりました。「みがく・かかわる・ひらく」の校訓の下、今年3月末までに11,000人以上が卒業しました。

式典では、記念事業協賛会の平田康弘会長の式辞や佐藤和俊校長らのあいさつ、歴代PTA会長などへの感謝状贈呈があり、全校児童の合唱で、開校2世紀に向かい発展を誓いました。

子どもたちが舞台上で熱演

居武士小学校の学芸会が11月9日に体育館で行われました。

全校児童20人が学年ごと、さらに全校で劇や合唱、遊戯などを披露しました。

児童は、日ごろの練習の成果を存分に発揮し、訪れた父母などから大きな拍手を受けていました。



居武士小学校



幼稚園

今年も好評でした

4Hクラブ（林 慎也会長、会員31人）の「4Hまつり・野菜即売会」が11月3日、公民館ロビーで行われました。

地産地消の活動を続けている農業青年の4Hクラブ。今回は、会員がそれぞれの畑で作った玉ねぎ220kgとじゃがいも130kgのほか、大根や白菜などが用意されました。

玉ねぎとじゃがいもは、1袋300円で詰め放題にして販売されました。会場には町内外から大勢の方が詰めかけ、袋がパンパンになるほど野菜を入れ、好評のうちに終了しました。



4Hまつり



ウオツチング



ウオツチング

